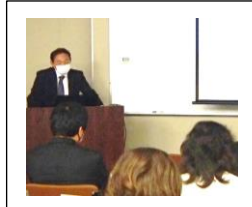


亀岡の学力向上講座Ⅲ(第4回学力担当者会議)

2022.12 亀岡市教育委員会

日時 11月29日(火)
講座の内容 実践発表(2校)、研究協議

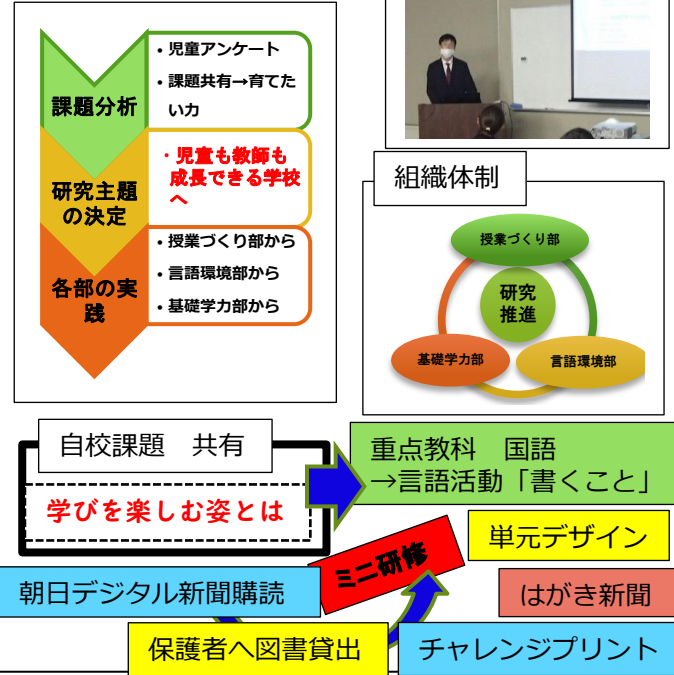
(1) 詳徳中学校 教諭 松岡瑞久
「魅力と特色ある学校づくり」
～学力分析と学力向上～



◎指導助言
学力向上アドバイザー
京都教育大学大学院
連合教職員実践研究科
教授 佐古 清 氏



(2) 詳徳小学校 教諭 西山研蔵
「言語活動を通して学び合う授業づくり」
～「学び」を楽しむ児童の育成を目指して～



<参加者の感想>

同僚性や子どもたちが安心して学ぶことができる環境、そこを土台に研究や授業改善が行われていることがすごくいいことだと思う。「学力」と一言で表されている中には、各教科の知識・技能だけでなく、様々な資質・能力がある。その資質・能力に目を向け、よりよい教育を目指していることが市内の学校全てで共有できる機会があるのもすごく大事だと思いました。

大切にしたいことは、教職員が同じベクトルで共通認識のもと授業改善や学習に向かう雰囲気作りに取り組んでおられるということです。

他校の学力向上に関わる実践について話を聞き、刺激を受けた。特に心に残ったのは、「教職員一丸となって」研究を進めているということである。

佐古教授の話にもあったように、「取組は枝葉の部分で、研究を進める強い思いや目的は根の部分に当たった。」子どもにとって、そして教職員にとって価値ある研究を進めることができるように、今後も精進したい。

自分が学んだことを伝える。この取組は生徒にとって大きな力になる。プレゼンテーションが出来る、その力は義務教育が終了しても必要な力であると考えます。

どちらの学校にも共通していたことは教職員の雰囲気作り。一つ一つ丁寧に、そして研修を重ね、各グループ内で和気あいあいと学ぶことを大事にしていくことが、「全教職員一体となった取組につながる」と思いました。そのためには、主たる教員の見通しとやる気、この2点は欠かせないものと思います。本日、発表いただいた先生方にも自分達が軸となる！という思いを感じました。まずは、自分自身が学ぶ姿勢を忘れないことが大切だと改めて感じました。

何より児童生徒の課題から、出発することの大切さ、また、共有する雰囲気は、児童も教師も同じで、教師の学び合いが、児童の学び合いにつながることを改めて感じました。